



マーくんが みずぼうそうになって、やっと ぶつぶつ
がとれたころ、こんどは ぼくとパパがなっちゃった。
ママはびっくりして、「あらあら」っていった。

「パパ、こどものとき してなかったの？」

「しらないよ。そうなんだから」

まっかなかおで ふうふういいながら、パパがいった。

三人のなかで パパが一ばん ひどかった。

九どのねつが 三日も つづいたんだよ。

ぼくは たった一日で さがっちゃったのにさ。

「うちは なんだか さかさまねえ。三さいのマーくんよ
り、一ねんせいのシュンくんのほうが ひどかったし、一
ばん おっきな人が いちばん たいへんなんだもん」
ふとんのなかの ひげもじやのパパをみて、ママはふう

って ためいきをついた。

「だけど、みずぼうそうなんて ほんともう こりごりだ
よ。はじめのうちは びょうきだからって がまんした。

けど、ちょっと かゆいだけなのに、どうして こんな

にながく がっこう やすまなきやならないんだ？」

「いつまで？」って きいたら、

「ぶつぶつが きえるまでよ」って ママがいった。

「いつ きえるの？」って きいたら、

「ふつう、十日か 二しゅうかん ってとこかな？」

ママは けろっといったけど……二しゅうかん！

そんなに じっと うちのなかにいたら、たいくつでた

いくつで しんじやうよ。

ねつが さがったパパは まいにち ふとんのなかで、